

PIONEER

「ピオネ」

Vol.5

真庭市地域おこし協力隊
×
真庭のパイオニア達



延吉 樹美



酒井 悠



石橋 整



弁慶(高橋 教馬)

現役協力隊が「気になるあの人」にインタビュー

協力隊OB・OGや移住者の先輩に、あれやこれやを聞きました!!



延吉樹美

Nobuyoshi Tatsumi



Umino Fumio

海野文雄

地域おこし協力隊OB『デザイナー』

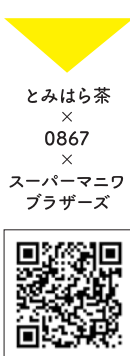


ブレイクダンスの
レッスンもしています!

延吉 僕達、地域おこし協力隊の大先輩になります。海野文雄さんです。改めて今日はよろしくお願います。
海野 よろしくお願います。
延吉 実は僕が協力隊になる前から海野さんとは知り合いなのですが、意外と知らない事が多くて今日は色々教えてください。
海野さんは協力隊時代どのような活動をされてましたか?
海野 当時協力隊という制度が真庭市で始まったばかりで、地域おこし協力隊としては3人目だった事もあり1年目は地域の人に協力隊を知ってもらうために、主に真庭市の地域自主組織を周りました。その中で地域のお話を聞いて地域を知り、また自分達



今日は貴重なお話ありがとうございました。
海野 ありがとうございます。



とみはら茶
×
0867
×
スーパーマニワ
ブラザーズ

延吉 海野さんの時代は協力隊制度が始まったばかりで協力隊ということを知りながら活動していたことも今の僕達の活動と違って興味深かったです。僕自身も協力隊になる前までは正直何をしていたのかわからないと思っていました。でも自分が協力隊になって思ったのは影でサポートする存在なんだと。地域が盛り上がりつつあるところ、協力隊が入ってその地域を起こせたと。主役はもちろん地域の人や団体です。スポットを浴びるのももちろん地域であるべきです。でも、だから影で活動している協力隊の活動は見えにくかったんだなと思いました。協力隊になってから「これも協力隊が関わっていたのか」と気づく事も多

(地域おこし協力隊)という存在を知ってもらいながら地域のお手伝いをさせてもらいました。
地域の小学生が作った水田米のキャラクターをデザインしたりポスターを作ったりしました。
2年目は1年目の活動が繋がって富原地域で山村活性化事業に関わらせていただきました。
富原茶のペットボトル化や皇子こんにゃくの復活、富原婦人林研クラブの里山キッチンカレールー開発など、行政と地域の繋ぎ役、デザイン・ポスターなど色々な活動をしました。そして3年目は定住する為の準備や地域の活動を卒業後も継続出来る様に準備しました。

ありました。海野さんの関わっていたペットボトルの「とみはら茶」もその一つです。初めて海野さんとお会いするきっかけになったこのペットボトルの「とみはら茶」も地域おこし協力隊時代に地域の方と作られて今も携わっておられるんですね。
海野 寿園さんと富原茶組合さんの共同で富原茶お茶プロジェクトを立ち上げ、富原茶のペットボトルの販売に向けて活動しました。両方の会社がお茶を誇りに思っていて、もっと多くの人に知ってもらいたいという気持ちだったこと。また、富原茶のペットボトル化のぞむ声も地域からあり、このプロジェクトが動き出しました。そ

の中でペットボトルのデザイン制作や市内外の販路開拓、自販機の設置などのサポートをしました。
またペットボトル化して3、4年後くらいにティールバッグのラベルが好評でペットボトルのデザインをそっちにしようということになり、そのタイミングでラベルだけではなく、より若者に知ってもらうように「0867」とコラボしたり、モデルの清水彩未さんを起用してポスターを作るなどしてリニューアルした「とみはら茶」が誕生しました。
その時の「0867」とのコラボやポスターも担当させてもらいました。
延吉 海野さんの作戦通り、若者の僕らスーパーマニワブラザーズがコラボCMの依頼をお願いする形になったんですね!!笑
海野 そうですね。笑
延吉 では協力隊の世代を超えたコラボ作品をご覧ください。笑



海野さん

地域おこし協力隊と 真庭市交流定住センター



真庭市交流定住センター 藤本

みなさま、こんにちは!真庭市交流定住センターの藤本と申します。
この冊子を手にとられたみなさまは、「地域おこし協力隊」という言葉を、どこかで聞いたことがあると思います。では、「地域おこし協力隊」って、どんな制度なのかご存知ですか?すでにご存知の方も多いと思いますが、改めて、その内容を紹介します!

? 地域おこし 協力隊とは?

地域おこし協力隊とは、都市部から人口減少や高齢化の進んでいる地域に移住して、地域を盛り上げる活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る制度です。

隊員を任命するのは市町村であり、活動内容や条件、待遇は、募集自治体によってさまざまです。真庭市の場合は、「市の任期付き職員」という形をとっています。任期は1〜3年です。

：とまあ、硬い説明を並べてきましたが、要は都市から地方に移住して、「地方でがんばります!」という人だと思ってください。

地域おこし協力隊は2009年に始まった制度で、任期終了者を含めると7000人以上の方が活動しています。真庭市は35人で、そのうち7割以上が任期終了後も定着しています。この数値、全国平均(65%)より高いんです。

また、真庭市は市役所・地域おこし協力隊・交流定住センターの三位一体の体制で、協力隊制度を運用しています。この体制、全国的にも珍しいんですよ。

などなど、書き出すと止まらないので、私の話はこれくらいにしましょう。

真庭市の地域おこし協力隊は、それぞれがユニークな活動をしています。ぜひこの冊子を通して「こんな人がいるんやなあ」「真庭の協力隊ががんばってるんやなあ」と、感じていただくと幸いです。

? 真庭市交流定住 センターって?

みなさまは、真庭市交流定住センターって、どんな施設かご存知ですか?よく言われるのが「移住希望者の相談窓口」です。確かに、私たちは「真庭市に移住したい!」という方の相談に対応したり、市内を案内したりしています。でも、それだけではありません!

「市民のみなさま向けのサービスもある」ということを、今回はぜひ知っていただきたい!!例えばコピーサービス。センターのコピーサービスは、1枚5円という価格。A1やB1といった大判印刷もできるので、「イベントのポスターを作りたい」「横断幕を作りたい」という方もご利用いただけます。

また、タイプの異なる3つの会議室もご提供。1時間150円で、会議やサロン、オンラインミーティングなどに活用いただけます。

そして私が最も知っていたかったのが、真庭のイベント情報をまとめたホームページ「ManiColle(マニコレ)」です!

真庭市って、イベントが本当に多い!そんな盛りだくさんなイベント情報をまとめているのがManiColleです。これを見れば、週末の楽しみが見つかるかもしれません。「真庭をもっと楽しみたい」という方は、ぜひご覧ください!

他にも、ホームページ作成支援や空き家情報バンクなど、さまざまな取り組みをしています。詳しくは、ホームページをご覧ください。そして、私たちでお役に立てそうなことがございましたら、お気軽にご相談ください!

イベント
情報発信



ホームページは
コチラ



延吉樹美

活動開始期間
2022年5月~

若者の活動を応援すると共に若者が挑戦できる環境作りや発展の手伝い、またダンスを通してダンスや若者文化の普及活動なども行っている。

海野文雄

任期満了後も担当地区であった富原でいち住民として暮らしている。任期中は特産品開発や地域自主組織をデザインの面からサポート。現在は合同会社ウーラを設立し、デザイン業をなりたいとする傍ら地域自主組織の活動や富原小学校・放課後児童クラブのサポートに取り組んでいる。

地域おこし協力隊より

この度は、冊子「ピオネ|Pione」Vol.5を、お手に取っていただき誠にありがとうございます。

真庭市の地域おこし協力隊は個性的なメンバーが多く、活動のジャンルや範囲も多岐にわたります。

日々の活動の様子を、少しでも地域のみなさまにお届け出来ればと思い、ホームページやSNSでも情報を発信しています。

また、毎月2回開かれる「協力隊会議」は地域内外のどなたでも参加出来る会議です。月の後半は真庭市内の様々な地域に出向いて「移動協力隊会議」も実施しています。

地域のみなさまとの接点をより多く作りつつ、一緒に実現したいことに取り組んでいければと考えておりますので、ぜひお気軽にお問い合わせください。

地域おこし協力隊・一同



左から半田、酒井、中北、延吉、柏野、弁慶、細見、石橋、森

ホームページ



Facebook



Instagram



北井さんが「ええがぁLABO真庭校」を受け継いでます！

北井さん

不登校という行為は子どもたちの大切な声です。そんな声が学校を飛び出さなくても届く、ありのままの自分であることに誰もが自信と誇りを持つる社会にすることが生をかけての目標です。 「ええがぁLABO」真庭校を受け継いでくださった北井さんは、同じ人生の目標を掲げている仲間です。着飾らなくていい、失敗したっていい、人と違うことは素晴らしい！そんな生きるとは素晴らしい！そんな生きるとはこれからの笑顔で失敗を重ねて、そしてまた登っていきます。 **弁慶** ありがとうございます。では最後に、ピオネをご覧になってる人へ伝えたいことがあればお願いします。 **高橋** 最後までご覧いただきましてありがとうございます。地域おこし協力隊の中には、人生をかけてやってきた人もいます。私は、家族も人生もかけて、この真庭市にやってきました。

そして、たくさんの方の温もりにふれ、また、たくさんの方のどうしようもない現実を知りました。外から来た人でしか、できないことがあります。そして、地元の人にしか、変えられない現実もあります。綺麗なことばかりじゃない現実を変えられるためには、地元の方の勇気が必要なんです。 子どもがワクワクしていない場所に未来はありません。あなたの周りのお子さまはワクワクしていますか？ 子どもの声を本当に真ん中に置ける環境がある場所には、人は集まっています。 あなたは多数の中の1人ではありません。あなたが勇気を出せば、変わることもたくさんあります。この冊子を手にとってくださったことも一つの出会いです。 あなたの人生を、ワクワク溢れるものであることを心から応援しています。

高橋数馬

活動開始期間
2022年4月～

1987年生まれ。大阪府大阪市出身。音楽好きな母の影響でサックスの魅力に気づき、8歳からサックスを吹き始める。

高校生の頃からバンド活動をしていて、音楽の専門学校入学後に結成したバンドでデビューを目指し活動するも道半ばで解散。その後、高校生からリスナーだった「レゲエ」の業界に飛び込み、レゲエサックスプレイヤーとして躍進。ハイエストマウンテンやコヤブソニックなど大きなステージでの演奏を経験する。

時は進み2021年夏。コロナ禍でめまぐるしく生活環境が変わる中、関西から岡山県真庭市に移住を決意。翌2022年春に移住して、同年4月から真庭市地域おこし協力隊に着任。

音楽というテーマで地域と関わり、サックスの演奏のみならずイベント運営やイベント主催なども行っている。

2024年8月には美甘地域にある「クリエイティブ」の施設内に音楽体験ができる空間をオープン。

退任まで残すところわずかだが、退任後も見据え日々楽しく活動している。



高橋数馬です。
よろしくお願ひします！

弁慶

Benkei



Takahashi Tomoyo

高橋智世

『サックスプレイヤー協力隊』

『公認心理士』

弁慶 改めて自己紹介をお願いします。 **高橋** 学校の保健室を飛び出して「大人になるのが楽しみ！」な社会づくりへの挑戦を続けている高橋智世です。学校の保健室から見えてきた子どもたちを取り巻く社会課題を解決するために、先生向けや企業へのコミュニケーション研修をしたり、不登校のお子さまのための教育プログラムの開発などを行っています。 **弁慶** そんな高橋さんの地域おこし協力隊の活動期間とテーマは何でしたか？ **高橋** 活動テーマは「心の健康と教育」ですね。 着任前に計画していた3年プランが予想外にスピーディーに進んだので、今後の活動を柔軟かつ本質的に進めるために1年半で協力隊は卒業しました。 **弁慶** 「1年半で卒業」は早い展開でしたね。そんな1年半の活動で印象に残ってる事は？ **高橋** 活動を開始する前に決めていたことがあって。それが、「土を知る」「虫を知る」「木を知る」「森を知る」「空から見る」の順序で子どもを取り巻く本質的な課題へ地域の人たちとアプローチをしていくということでした。

なので、「土を知る」「虫を知る」をじっくり、こちらから歩み寄っていいと思うのですが、移住してすぐに沢山の子育て世代から「話を聞いてほしい」とお声かけいただいたことに凄くびっくりして、印象に残っています。 **弁慶** 「土を知る？」「虫を知る？」それについて具体的にどんなことですか？ **高橋** あ、ごめんなさい。抽象的すぎましたよね。 私は元から人が大好きで、5分話せば、すぐに仲良くなって、どんどん深く話をしてしまう癖があるんです。 だからこそ、全く知らない土地である真庭市に来たからには、まずはじっくりとその土地の歴史を感じよう、と思っただけです。関西で育った私には知らない、目に見えない文化や歴史、それによって根付いている地元の人にしかわからない文化をまずは学ぼうと思いました。これが「土を知る」という部分です。そして「虫を知る」は、そこに長年住んでいる人の望みや習慣、そして困っていることを知ることがステップです。その後、その土地で育った魅力や財産とされているものを知る、これが「木を知る」です。そしてその木の集合体である大きな力や流れを見るステップ「森を見る」をした上で、本質な改革に携わりたいたいと思っていました。 **弁慶** 着任後2ヶ月で27人以上から

のDMですか！それはびっくりですね。 **高橋** そうですね。子育てや教育にまつわる違和感や不便さをありのままに発信していただけたので、この反響の多さとスピードには本当にびっくりしました。 **弁慶** そんな着任早々から反響がある中で、協力隊活動で「ここは苦勞した」ということはありますか？ **高橋** そうですね。たくさんの子育て世代の方とじっくりとお話して見えてきたのが「みんなと一緒にでないといけない」という同調圧力に苦しんでいる「声を上げてみてもすぐに消されてしまう」といったものでした。そしてその中でも緊急度と必要性が高かったのが「不登校」にまつわる課題でした。 **弁慶** 私にはそこにはアプローチする活動として、学校に行けない、行かない選択をした子どもたちが自分らしい進路へ進むためのオルタナティブスクール「ええがぁLABO」を真庭市の子育てママさんたち、教員を目指す学生、元教員たちと創り上げたのですが、その時に「地域おこし協力隊は自立行動をしない」「不登校は少人数の特殊な課題だから公共の利益ではない。協力隊がやることではない」など行動を制限するような言葉をかけられた時ですね。市民の中でも少数派で苦しんでおられた当事者の声をひたすら集めてきたので、それを「公共の利益ではないから」「あなたにやりたいことをやっているだけにすぎ

ない」と言われた時は本当にショックでした。 **弁慶** なかなかリアルな内容の話ですね。笑。そのことが協力隊を早めがっていったことにも少なからず繋がっているとは思いますが、協力隊を卒業した現在はどうしていますか？ **高橋** 不登校の親子や、子どもとの関わり方に悩んでいる先生たちの学び場であるオルタナティブスクール「ええがぁLABO」を設立し、地元の情報あるれるママさん方に現場運営をお任せできるようにするための、私は全体のマネジメントをする立場になり、全国展開のために準備をしているところです。 これまでの教育現場での経験や、公認心理士としての専門的知識をベイスに「True.ing教育」のメソッドを確立し、それを真庭市で必要とされていた形に創り上げたのが「ええがぁLABO」なのですが、私の本来の目標は「ええがぁLABO」を作ることではなく、10代の自殺のない社会を作ることなんです。なので、「ええがぁLABO」のメソッドをベイスに日本各地で、その地で求められている形に柔軟に対応した「True.ing教育」をポットを広めていくことへの挑戦を続けています。 **弁慶** 素晴らしいですね。今後の目標は？ **高橋** 不登校という社会現象は、見方を変えれば、子どもたちの本音を行動にしていることだと思います。

高橋智世

養護教諭(保健室の先生)としてのべ10年間勤務。当時はあまり知られていなかった心の健康教育を独自でカリキュラム化し小中学生を対象に実施。虐待・不登校・自殺など保健室から見えてきた社会課題を解決し「大人になるのが楽しみな社会」をつくりたいという想いから2019年より「出前保健室」という独自のスタイルで起業。2022年から関西だけではなく岡山県の過疎地域にて不登校支援をスタートさせる。



高橋さん

2024 新隊員紹介

半田 豊勝 Handa Toyokatsu



初めまして。2024年4月1日より協力隊に着任致しました半田豊勝と申します。

神奈川県横浜市出身で消防設備士として消火栓やスプリンクラー関係の試験業務をする会社で約10年勤めておりました。一方、バイクで旅するのが好きで休みの度に日本全国を巡って来ました。岡山県にツーリングに来た際に、絶景が広がる蒜山高原、泉質の良い温泉そして美味しい湧水などに魅了され、ここ真庭市に住みたいと思い、移住を決意致しました。また、キャンピングアウトラドアも趣味で、それにより狩猟やジビエにも興味があり、一昨年に狩猟免許及び散弾銃を所持する事になりました。そして狩猟チームに加入し、主に鹿の巻狩り狩猟を経験することができました。鹿以外にもクマ、イノシシ、キジなどを食べる機会もあり、ジビエの美味しさや栄養価値も知る様になりました。いつの間にか、秋から春の間はジビエ三昧の生活になっておりました。「胃袋を掴まれる」とはまさにこの事です。また野生鳥獣による農作物や森林被害を知り、有害駆除の必要性も実感しました。ただ駆除するのではなく、頂いた



命を無駄にすることなく適切かつ迅速に処理できる技術を身につけ、衛生面や品質の高いジビエを広めていければと思います。まだまだ経験は浅いですが、知識や経験を増やし真庭を盛り上げられるよう頑張ります。着任してからは先輩協力隊に同行し各地区を案内して頂き、先輩方の活動を見学し勉強させて頂きました。そして現在の主な活動は、湯原にあるジビエカーで捕獲された鹿の一次処理作業の技術習得や鹿肉を広めるための営業や出店イベントなどへの参加です。

これからは猟友会に加入し、狩猟及びジビエを通じて地元の方々のニーズに応えられる協力隊になりたいと思っておりますので何卒宜しくお願いします。



柏野 悠吾 Kashino Yugo



こんにちは！協力隊に就任いたしました柏野悠吾(K)です。友人からは「K」と呼ばれているので、気軽に「K」と呼んでください。

私は「人の可能性を開くこと」をテーマにしています。そのために、良い環境や人とのつながり、自発的な意志が大事だと考えています。特に自然に囲まれた環境が、人にとって大きな影響を与えると、庭づくりに興味を持ちました。庭づくり、手入れについては、京都や奈良で学びましたが、最近では昔のような広い庭よりも、駐車スペースやパーベキューができる実用的な庭が人気です。その中で、日本の伝統的な庭文化が少しずつ薄れているのではないかと、この危機感を感じるようになりました。

その危機感を持ちつつ、もっと視野を広げたいと思い、ワーキングホリデーを活用して海外で1年間生活しました。そこでシェアハウスやゲストハウスで多くの人と交流し、日本にもこうした国際的な交流の場が必要だと感じました。その思いから協力隊に応募し、今年の6月から真庭市での活動をスタートさせています。1年目は、まず地域のことを深く知るために、真庭市内の祭り



やイベントに積極的に参加し、地域の方々とつながりを作っていくつもりです。実際に地域に根ざして活動するためには、現場の声をしっかりと聞くことが大切だと思っています。そして、地域の課題を直に感じることで、今後の活動のヒントを得ていきたいと考えています。2年目、3年目には、そこで得た経験をもとに、小さな宿を開いてみたいと思っています。特に、旅人や学生が気軽に滞在できるようなゲストハウスを作りたいと考えています。このゲストハウスでは、滞在者が地元の人々と自然に交流できる場を作り、真庭市の魅力を感じてもらえるようにしたいと思います。

中北 修 Nakakita Osamu



「スマート農業への挑戦」

義父母の支援

私が農業の道を選ぶ大きなきっかけとなったのは、農業を営んできた義父母の存在です。高齢になった義父がケガをしてから以前のように農作業が思うように出来なくなっていました。それに伴って義母への負担も増し、苦勞が目に見える状況となってしまいました。代々受け継いだ田んぼを守り続けた両親の思いに、少しでも役に立ちたいという気持ちが強まりました。現在の農業手法を学びながらも今は新しい技術や考え方も取り入れて、より発展的な農業を目指していきたいと思っています。この思いが私の農業への挑戦の土台となっています。農業の人手不足と後継者問題

日本の農業は深刻な人手不足と後継者不足の課題に直面しています。特に地方では、農家の高齢化が進み、農業を続けるための支援が欠かせない状況です。地域の活力を維持するためにも自らが現場に立って働き、地域の農業の支えとなることに大きな意義を感じています。さらに、私自身が次世代に受け継いでもらえるような環境づくりを目指し、後継者問題の解決にも貢献したいと考えています。地域の農家の皆さんと協力し、より持

持続可能な農業体制を作り上げることが私の使命だと考えています。

スマート農業の可能性

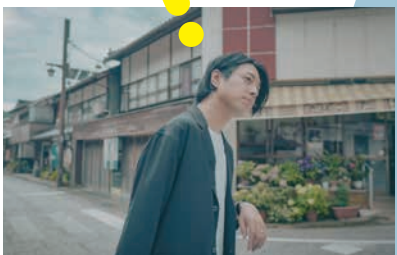
農業において従来の方法を守ることが重要ですが、私は新たな技術を活用した「スマート農業」にも強い可能性を感じています。スマート農業は、IoTやAI、ドローン、ロボット技術を活用し、効率的な農業経営を実現するアプローチです。こうしたテクノロジーは、労働負担の軽減や生産性の向上、さらには天候リスクの予測など、農業の持続性を高める多くの利点をもたらしてくれる可能性があります。伝統的な農法と最先端技術を融合させ、地域に新しい価値と可能性を提供したいというビジョンを持って、積極的に挑戦していきたいと考えています。

50歳目前の挑戦

人生の節目である50歳を前にして、私は新しい分野への挑戦に意義を見出すようになりました。これまでの仕事や経験から得たスキルを農業に活かしながら、未経験の分野で自分自身を成長させることに挑戦するのは、大きな自己変革でもあります。人生の後半に差し掛かった今だからこそ、未知の分野で新たな知識や技術を身につけ地域と共に歩んでいきたいと思っています。農業への挑戦は、私自身をさらに豊かにし、人生を充実させる貴重な一歩になると感じています。



森 貴充 Mori Takamitsu



初めまして。2024年7月から地域おこし協力隊に着任いたしました、森貴充(もり)と申します。この記事を読んでもくれたみなさんに、僕という人間と活動への想いがちょっとだけ伝わったらいなと思って書いているので、最後まで読んでいただけたら嬉しいです。

実は僕、真庭市出身のUターンなんです。平成5年生まれたの31歳という、若い年のかたもいらっしゃるのではないのでしょうか？同じクラスだったよってかたもいらっしやるかもしれませぬ。勝山高校を卒業したあと、決してポジティブではない感情をこの街に持ちながら上京しました。7年間ほどミュージシャンとして活動した後、飲食業界に従事し、4年ほど前にSNS動画の制作をメインにフリーランスとして独立をしました。

その後、今年の5月にUターンをしてくるまで動画制作、キャリア教育・独立支援、立ち飲み屋経営の3本の柱に「キャリア」という横串を刺して活動していました。僕はキャリア支援をテーマにおき、この真庭にキャリアのインフラを整えるべく活動し

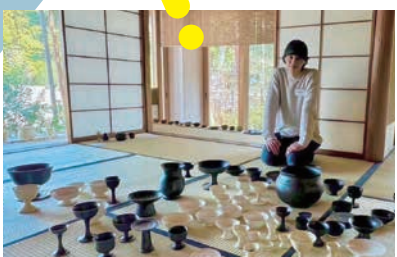
ています。この仕事は天職だと思いつつ、ながら飲食業に従事していたのですが、この先の人生設計やキャリアが見えなかったことから、独立をして自分自身でキャリアを開いていく覚悟を決めました。それからは自分の意思次第であらゆるキャリアが開拓できることを実感できました。

一方、キャリア教育に携わる中で、「地方だから仕事がない」「主婦だからパートでしか働けない」などの理由で、「しょうがないキャリア」を選ばざるをえない方々がたくさん存在していることも知りました。現在真庭でも、さまざまな理由で若い世代の流出とともに街の灯りも少なくなってきたと聞きます。2年ほど前から真庭の魅力に気が付き、触れるたびに好きとなくなっていく自分の故郷がじわじわとなくなっていく未来はみたくありません。

そこで自分の経験を活かして、真庭でもさまざまな職業の選択肢が持てる、自分にあった働き方や生き方を試行錯誤できて、この地で家庭を持ち、子どもを育てる選択ができる。そんな環境を真庭に整えたいと思っています。僕には奥さんと3歳の息子がいて、家族でよく勝山を歩いたり居酒屋にいたりするので、もしお会いした際にはぜひお話ししましょう！



細見 尚生 Hosomi Naoki



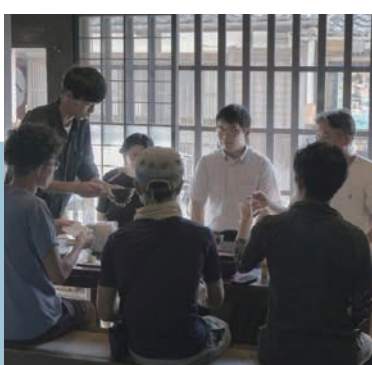
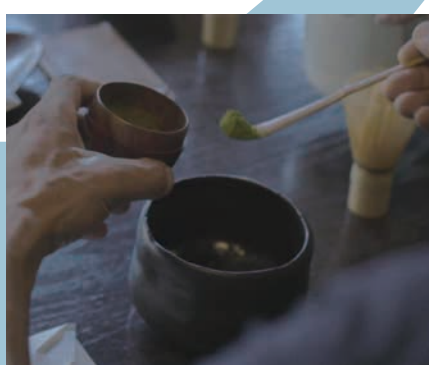
兵庫県加西市出身で、京都芸術大学(美術工芸学科 基礎美術コース)を卒業後、6月〜7月のインターンを終えて、8月から正式に真庭市地域おこし協力隊として活動させて頂くことになりました。

僕は、大学で陶芸、漆芸、茶道、臨書(書道)、篆刻、生け花、能、日本画、水墨画など、「東山文化」を中心に学んできました。大学で学んだことを活かして、職人やアーティストの元へ行き、知識・技術を身に付け、それを通してPR制作やワークショップをしたり、既存のイベントに出展したりし、それらを情報発信していこうと思っています。真庭市役所、交流定住センター、先輩隊員達を通して、さまざまな「ヒト・コト・モノ」から「歴史・文化・工芸・芸術・生活学」に出会い、魅力をたくさん学べたらなと思っています。もちろん、自分だけが面白ければいい！なんてことは思っていません。



「自分一人だけでも満足すればいい... 楽しければそれでいい...」そんな考え方も時には重要かもしれませんが、それは「個人」であれば許されるかもしれませんが、「市」に雇われている「国」からお金を頂いているということもあり、地域に貢献しなければならぬと思っています。僕は新卒なので、社会経験が豊富ではないので、国のお金を使って、自分だけで人のために何かできるとは思えません。地域の皆様のご協力も得ながら「協力隊」として活動したいなと思っています。

体力が限られているのですが、僕にもできること、何かご協力できるようなことがあれば、ぜひともお声掛けください。よろしくお願致します。



人生にスパイスを

Oyanagi Kensaku
小柳 堅策



どうも、「人生にスパイスを」と協力隊活動をしてきた小柳堅策（おやなぎけんさく）です。
しかし、実際にはコロナというとてもない苦境の中での活動でした。
『食』を活動の軸にしていたため影響は多大でしたが、今となっては退任後も続けている月一の子ども食堂『みんな食堂』街スパKIDSやコロナ禍で苦戦しながらも飲食店（カレー屋とバー）を経営してきたことは良い糧となっています。
現在は自店舗の営業やイベントへの出店に加え、スキマ時間での副業など個人事業主らしく忙しくしています。

飲食店という人が集まる場に身を置いていたので協力隊活動中に知り合った方たちも遊びに来てくれたり、酒を交えてのコミュニケーションが増えるので以前にも増して親密になれたり、新しい繋がりができたりと楽しくやれていますね。
皆様のご来店もお待ちしております笑。

卒業後はどんなことをしているの??

真庭市の
地域おこし協力隊

OB、OGレポ

協力隊時代のこと&現在の暮らし、教えてくださいーい(^-^)/

狩猟と歴史が大好き

Kittaka Nanami
橘高 七海

主に歴史をテーマに北房で活動していた橘高です。協力隊時代はありがとうございました。
協力隊期間中と変わらず現在も好きなことさせてもらっています。
仕事ではシカを捌かせてもらい、プライベートでも猟師をさせてもらっています。猫を始めたころ、罾で捕まえた20キロもないイノシシと相対した際に膝が笑っていた私ですが、今ではばったり遭遇したイノシシの後を追いかけて、隙を見て持っていた農具でどついて仕留められるくらいになりました。
相変わらず縄文・弥生・古墳時代辺りのことが好きで、最近ずっずと行ってみたかった東京国立博物館（東京都台東区）で蒜山の四ツ塚一号墳出土の杏葉の実物を見ることができたのがうれしかったです。また、骨角器の図録を入手したのでそれを参考に、シカの角で何かできたら楽しいなと思っています。
最近ようやく、皮の加工をしてみようかと重い腰をあげました。獣皮衣づくりに挑戦したい。
それでは、またどこかで。大抵ひまわり館の裏にいます。



資源を循環させる里山の暮らし

Hida Midoriko
樋田 碧子



地域おこし協力隊になって良かったのは、広い真庭市の、さまざまな地域・ジャンルの活躍する人と出会えたこと。協力隊メンバーも、それぞれが自分の世界をしっかりと持っている、情報交換は毎回刺激的でした。
住み開きを目指して改修を続けてきた古民家「ふるやしき」は、いろんな人の手を借りながら、だいたい形ができてきました。昨年11月にお披露目会が行われ、イベントスペースとして、映画上映会や、餅つきイベントなどに貸し出しています。新年度からは、「まにわ里山留学」で中和に来る子や地域の子たちの居場所として、日常的に使ってもらおう予定です。
個人的には、2月28日に第2子が生まれました。名前は「燈里（とうり）」といっています。3歳になった息子は、恵まれた環境下、足腰が超丈夫で人懐こい子に育ちつつあります。当面は子育てを楽しみつつ、裏山や畑の資源を循環させる里山の暮らしを徐々に整えていけたらと思っています。

協力隊期間を振り返って

Ikeda Sho
池田 将

私は2021年に東京から夫婦で移住してきました。こちらに地縁関係はありませんでしたが、真庭のハイパー営業マン・松尾さんとの衝撃的な出会いにより、縁が始まりました。松尾さんは協力隊一期生でもあり、真庭の魅力的なヒト・コト・モノを知り尽くしていました。「こんな風に地域の魅力を熱く語る人間になりたい」と思い、協力隊という働き方を選択しました。
2年7ヶ月の活動期間で得た最大の成果としては、あの時の松尾さんのように真庭の魅力をこれでもかと語れる人間になったことです。現在、私はシティブロモーション事業を展開しながら、「Gajumar」 というチーズケーキ屋も妻と運営しています。この3年半で、夫婦+娘+猫+犬二匹で暮らすことになりました。真庭じゃなかったらこんな未来を描けなかったと思います。真庭は私にとって大切な場所となり、娘にとっては「ふるさと」となりました。これからは「協力」ではなく、「恩返し」をし続けていきたいと思っています。



Pione ピオネ

「ピオネ | Pione」は真庭市地域おこし協力隊員、真庭市交流定住センターが
共同で制作している冊子です。

「ピオネ | Pione」は黒ぶどうの一種「開拓者」という意味のイタリア語に由来します。
真庭市名産のピオーネのように真庭市民(パイオニア達)と
真庭市地域おこし協力隊が力強く大きな一房となることを願い、
そして、本冊子を通して真庭のパイオニア達や真庭市地域おこし協力隊の活動が
多くの方に届きますように。

ピオネ | Pione (真庭市地域おこし協力隊通信) Vol.5

発行 / 2024年12月

発行元 / 真庭市地域おこし協力隊 <https://i-maniwa.com/area/kyoryoku/>

協力・監修 / 真庭市交流定住センター <https://i-maniwa.com/area/koryu/>

○本誌からの写真・文などの無断転載を禁じます。

真庭の素敵な情報はこちらから



〈COCO真庭 ここまにわ〉

「真庭の暮らし・人」の掲載サイト。
真庭市内での住まい探し、仕事など
移住支援の紹介もしています。



ManiColle

〈ManiColle マニコレ〉

真庭のイベントコレクションサイト。
「週末どこ行こう?」
「何か面白いイベントはないかな」
などなど、情報満載。

